

「柏崎の橋」

38 枇杷島跨線橋（柳橋町）

枇杷島跨線橋は、JR信越本線を跨いで新橋と柳橋・関町を繋ぐ国道352号線上の陸橋である。

『柏崎』（大正4年発行）に「柏崎町から上条郷へ行く広小路柳橋は、一年三回の市が数百年引続いて柏崎の臨時市場として有名なものであった。」とあるように、柳橋を通過して広小路と上条方面を結ぶ道は、市場へ商品を運ぶ際に使われる重要道であった。古くから上条郷の人がここを通過して薪・炭・野菜などを売りに来たという。

明治時代に北越鉄道が敷設されると、この道は柳橋踏切（現在の柳橋地下道の所）に分断された。高度経済成長期の昭和40年代には、列車の本数増加や貨物列車の入替作業などの影響で遮断機がなかなか上がらず、混雑時は踏切待ちの車が国道8号線まで数珠つなぎになったという。時には20分ほど待たされることもあり、「枇杷島で待つより四谷に回った方が早い。」とまで言われた。



柳橋踏切

関町方面を見た様子（撮影年不明）

真貝新一氏寄贈写真より

この状況を解消するため、昭和50年3月29日、信越本線を跨ぐ全長555mの枇杷島跨線橋が架けられた。軟弱地盤のため大規模な基礎工事が必要となり、完成には4年の歳月と、米山大橋



枇杷島跨線橋と地下道
（昭和58年の地図より）

を上回る7億円もの費用が投じられた。橋の完成により、「あかすの踏切」と呼ばれた柳橋踏切の渋滞問題は解決、踏切は一時的に閉鎖されたものの、地元の要望で後に地下道となり、歩行者や自転車・バイクは通行できるようになった。

当初、枇杷島跨線

橋から鶴川沿いに

新しい道路が作られ国道353号線に接続する予定だった。そのため橋の完成時には、全体の一部が開通したに過ぎないということで、記念の行事は行われなかった。しかし「あかすの踏切」の解消という意義に加え、市街地と国道8号線を結ぶという都市計画上重要な意味を持つこの橋の開通が、柏崎市民にとって大きな喜びであったことは間違いない。

●参考にした本

- 柳橋今昔物語（224ヤナ）柳橋町町内会
- 新橋（柳橋2区）の歩み（224ヤナ）柳橋2区町内会
- こどものための柏崎物語（224ササ）笹川芳三 著